

昭和58年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖繩県
 専門技術員室名称 沖繩県漁業者センター-専技室
 普及区域 県下一円

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動事項	沿岸施策との関連
企画事業	1. 沿岸漁業改善資金運営事業(沖繩県沿岸漁業改善資金貸付規則及び基準要綱)	7月 10月 1月	漁業者センター	市町村、漁協 漁業者	漁政課 農政普及所 水産試験場 市町村、漁協 県・信漁連 漁業者センター	1. 改善資金運営協議会(8月、11月、2月計3回) 経営等改善資金 95件 100,677千円 生活改善資金 10件 7,055千円 後継者等養成資金 1件 2,598千円 計106件 110,330千円 2. 運営委員 16名	前年と同様
	2. 漁業後継者対策事業(沖繩県漁業青少年協議会々々即)	8月、9月 3月	漁業者センター	沖繩地区 青少年協議会 (委員8名)	漁政課 漁業者センター 研究グループ 代表、団体 漁協、市町村 学識経験者	1. 漁村青少年グループの現状と活動実績の把握 2. 学習会、技術交流会、青少年水産教室の開催と協力態勢(各普及地区) 3. 活動実績発表大会の準備及び参加(昭和58年度青壮年3名 婦人1名 計4名発表) (担当普及員、漁協等指導協力)	前年と同様

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
		9月、1月 3月	八重山地区	八重山地区 青少年協議会 (委員5名)	八重山支庁 研究グループ 代表、団体 漁協 市役所 学識経験者 宮古支庁 研究グループ 代表、団体 漁協、市町村 学識経験者	4. 新技術実証事業の成果と波及 (本島地区青少年協議会、名設漁協 研究グループ糸満漁協青壮年部)	
企画事業	3. 婦人農漁業従事 者広域セミナー	1月	八重山	婦人農漁業 従事者	営農指導課 中部農業改良 所 普及 漁業者センター 市町村、農協 漁協	農漁家婦人の家庭生活及び生産活動の 共通課題から生活環境、健康労働障害 について検討 農業部門30名、畜産部門12名、漁業部 門12名、計54名参加	
	4. 漁家生活改善推 進協議会 (現地調査検討)	11月	与那原町	与那原町 漁協婦人部	営農指導課 中部農政所 普及 与那原町役場 与那原漁協	広域セミナーに関して漁家婦人の生産 活動、生活環境、健康管理、漁労障害 について、生活改善普及員と協同で現 地調査実施 15名参加	前年と同様

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
調査事業	1. 沿岸漁業改善資金 (資金需要調査)	4月～3月	3普及地区	漁業者及び関係団体	漁政課 漁業者センター 農普及所 宮古、八重山支 市町村、漁協	昭和58年度資金需要調査 経営等改善資金 204件 179,600千円 生活改善資金 11件 7,400千円 後継者等養成資金 11件 26,700千円 計226件 213,700千円	前年同様
	2. 沿岸漁場整備事業 (人工魚礁利用効果調査) (協力)	4月～3月	3普及地区	国頭漁協 糸満漁協	水産試験場 水産振興課 関係市町村	1. 漁具の改良に伴う人工魚礁周辺海域の調査を実施した。(実証事業に伴なうレンコカゴ使用) 2. 魚礁の効率的利用方法と魚礁位置の指導	継続実施
	3. 業態別漁業経営の実態調査指導	4月～3月	各漁協	漁業者	市町村、漁協	標本漁家の選定や計画案のつめが遅れ 时期的に適当でなく、実施までには至 らなかった。	継続実施
試験事業	1. 曳縄釣技術改良試験	3月	糸満、与那国	漁業者 研究グループ	糸満漁協 与那国漁協	前年度の技術改良試験では成果を得る ことは出来なかったが、58年度は、漁 具の改良を試み実施した所、2～3時 間操業で67kgの水揚実績を上げた。 (詳細については技術改良試験で報告 する。)	実証事業への展開

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
試験事業	2. カゴ網漁業試験	3月	糸満	漁業者 青年部	糸満市 漁協 村	実証事業のレンコカゴ網漁業の指導及び協力、長崎より導入したレンコカゴを49カゴ投入し操業試験を実施した結果①時期及び漁場により水揚げの変動が大きい。②入カゴ口の改良の検討。③漁場によりチダイ30尾～40尾の入カゴがあり継続調査試験の必要がある。(詳細については実証事業報告書参照)	再度実証事業への展開
	3. イバラノリ養殖試験	4月～9月	名護	漁業研究会	名護市 漁協 役所	実証事業のイバラノリ養殖試験の指導及び協力、技術改良試験である程度成課が得られたので実証事業へ展開させた結果①施設の改良。②結着方法の改良等省力化が図られ成果を得ることが出来た。 (詳細については実証事業報告書参照)	他地域への波及
改良普及員 研修	1. 普及職員一般研修	4月～3月 4月～3月	青森県 漁業者センター	全国専門技術員 3地区改良普及員	青森県 専門技術員	昭和58年度水産業専門技術員研修会(8月)一般研修 1. 普及員の役割、オペニオンリーダーとしての心構え等についての研修会を開催。 2. 後継者育成と協議会運営について 3. 普及計画と活動について	継続実施

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項	
研修事業	2. 漁業、増養殖技術研修会	4月～3月	名護漁協 伊是名漁協	改良普及員	専門技術員	1. タル流し漁業技術研修会 2. モズク冷蔵保存技術研修会 3. 曳縄釣漁業技術研修		
		3月	糸満	漁業者	市町村、漁協	1. レンコカゴ漁業について		
		10月	佐敷	"	"	"	2. ヒジキの増殖について	
		2月	与那原	"	"	"	3. パヤオの効果と釣漁業について	
		3月	具志川	"	"	"	4. モズクの芽落ちと水温の関係について	
		2月	漁業者センター	"	"	"	5. イバラノリの養殖について	
		2月 8月	本名	"	"	"	6. 魚類の蓄養について (詳細は実績報告書等参照)	
指導事業	1. 巡回指導 2. 技術交流会	4月～3月	沖縄地区 宮古地区 八重山地区	市町村 漁協 研究グループ 漁業者	専技、普及員	1. 漁具漁法増養殖技術沿岸漁業改善 資金活用その他普及活動後継者育成 事業に係ること。 2. 研究グループの自主的運営、組織 活動の充実拡大を図る。(研究グル ープ14、漁協青年部13、婦人部10) 3. 巡回相談、青少年協議会の運営指 導		
		7月	沖縄地区 宮古山	漁協 生産グループ	長崎県漁青連 市町村、漁協	1. 青年部連合会交流(長崎) 2. トビウオ1そう曳漁業について (伊江)		
		3月	沖縄地区	漁業者	市町村、漁協	3. トビウオ2そう曳漁業技術交流と 流通について(糸満)(詳細は実績 報告書等参照)		

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
指導事業	3. 交流学習会	3月	本 部 漁業者センター	市 町 村 漁 協 研究グループ	市町村、漁協 " " "	1. アゴ2そう曳漁業について(与論漁協、南吉信) 2. 漁協運営について(鹿児島漁連、難波義彦) 3. モズクの芽落ちと水温の関係について(瀬底普及員)	
	4. 青年水産教室	9月	本 部	市町村、漁協	市町村、漁協	1. 協同組合について(漁政課 北村係長) 2. カブセ釣漁業について(仲間主任技師)	
		11月	那 市	漁 協 研究グループ	" "	3. 栽培漁業について(水試伊差場長)	
		"	"	市町村、漁協	" "	4. 沖縄の養殖漁業について(農水産開発、新崎盛謙)	
		1月	"	漁協、青年部	" "	5. サング礁の発達と沖縄の地形(琉大、目崎助教)	
		"	市町村、漁協			6. グループリーダーの育成について(鹿児島県専門技術員、若松清)	
	5. 少年水産教室	8月	漁業者センター	中 学 生	沖縄水産高校 水産試験場 糸満漁協 漁業振興基金	漁業者の子弟に漁業に関する初歩的な知識及び技術、実習を中心に夏期学級を5日間実施した。	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
指導事業	6. 漁村青壮年婦人活動実績発表大会 (8回目)	11月	那覇市	3普及地区 漁協、青年部 漁協、婦人部 研究グループ	県漁関係機関	県産業祭の一環として、水産振興大会と呼応して漁村青壮年婦人の自主的な研究活動実績の成果を発表させ相互間の交流、活動意欲の向上を図る。 (参加者：250名)	
	7. 沿岸漁業改善資金運用指導	4月～3月	3普及地区	改良普及員 生活普及員 市町村、漁協 漁業者	漁政課	普及活動指導の一環として取りくむ。	
	8. 漁業増養殖技術指導	4月～3月	3普及地区	漁業者 研究グループ 漁協、青年部 婦人部	専門技術員 改良普及員 市町村、漁協	漁業増養殖技術及び営漁指導については担当地区ごとに、毎月の活動状況をチェックし必要に応じて助言し指導に当る。 特に実証事業や試験事業に関しては、試験方法や実施場所の選定等についての助言と現地指導に当る。さらに現地の講習会や実地指導を行ない時期的に指導を要するものについては定期的に巡回し、指導に当る。	

昭和58年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖縄県
 改良普及員室名称 県漁業者センター-水産業改良普及室
 普及区域 沖縄本島地区

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
事業区分	<ul style="list-style-type: none"> 漁業後継者対策事業 	9月、10月 3月	漁業者センター-石川市 漁業者センター	漁村青少年	市 漁協、団体 学識経験者	<ul style="list-style-type: none"> 漁業後継者対策事業の検討、策定のための委員会開催（年3回） 	<ul style="list-style-type: none"> 漁村青少年の意向集約 実践活動の評価 委員会活動の自主性
	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸漁業改善資金運用事業 	8月、11月 2月	漁業者センター	漁業者協	漁協、市町村 農改普及所 漁連、信連	<ul style="list-style-type: none"> 改善資金の事業計画の検討策定及び申請書類の検討のための常任委員会への参画 	<ul style="list-style-type: none"> 運用面での沿岸漁業改善資金の貸付事業を普及指導し、活動の中に取り組み
企画事業	<ul style="list-style-type: none"> 漁船技術修練会 	10月、1月	北中城村 中城村	漁業者	協 日本船舶職 員養成協会 日本電波協会	<ul style="list-style-type: none"> 取扱い件数については専技活動記録に集約 1級小型船舶操縦士免許 ¥1,604,000 昭和58年10月17日～12月2日まで講習会を開催、31人が受講し全員合格した。 	<ul style="list-style-type: none"> 総 結 実 施

昭和58年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖縄県
 改良普及員室名称 県漁業者センター 水産業改良普及室
 普及区域 沖縄本島地区

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	<ul style="list-style-type: none"> 漁業後継者対策事業 	9月、10月 3月	漁業者センター 石川市 漁業者センター	漁村青少年	青年町 市 漁協、団体 学識経験者	<ul style="list-style-type: none"> 漁業後継者対策事業の検討、策定のための委員会開催（年3回） 	<ul style="list-style-type: none"> 漁村青少年の意向集約 実践活動の評価 委員会活動の自主性
	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸漁業改善資金運用事業 	8月、11月 2月	漁業者センター	漁業者協	漁協、市町村 農改普及所 漁連、信連	<ul style="list-style-type: none"> 改善資金の事業計画の検討策定及び申請書類の検討のための常任委員会への参画 取扱件数については専技活動記録に集約 	<ul style="list-style-type: none"> 運用面での沿岸漁業改善資金の貸付事業を普及指導し、活動の中に取り組む
	<ul style="list-style-type: none"> 漁船技術修練会 	10月、1月	北中城村 中城村	漁業者	漁協 日本船舶職 員養成協会 日本電波協会	<ul style="list-style-type: none"> 1級小型船舶操縦士免許 ¥ 1,604,000 昭和58年10月17日～12月2日まで講習会を開催、31人が受講し全員合格した。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	。漁場調査	10月～3月	伊 伊 伊 名 是 平 屋	生産グループ 漁協、青年部	漁協、市町村	。ヒトエグサの養殖漁場調査 58年度は新規に伊江漁協、伊是名漁協、伊平屋漁協の3漁協においてヒトエグサ養殖の基礎的調査（漁場選定、潮位観測、生育層調査、網の高さの決定）について実施した。さらに収穫方法の機械化と処理加工の省力化を図るための先達漁家との技術交流を図った。 。ヒジキの漁場調査	必要に応じて実施
調査事業		9月～3月	与那原町	漁協婦人部	漁協、市町村	株石の移植に伴なう漁場の選定及び移植実施、今回は漁協婦人部と水産高校の漁業経営科の2～3年生の実習もかねて株石の移植作業を実施した。その結果株石数：636、株石当りの平均個体数：73、株数合計：46428株を移植した。10月5日植え付け後5ヶ月目の3月には大きき50cm～70cm収穫サイズに達した。与那原漁協では58年度は処理加工場（構造改善事業）の完成により、生で60トン、乾燥で6トンの生産を見込んでいる。	継 続 調 査

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
調査事業	・漁場調査	10月～3月	伊 伊 伊 名 是 平 屋	生産グループ 漁協、青年部	漁協、市町村	<ul style="list-style-type: none"> ・イバラノリの漁場調査 <p>今回は、新技術実証事業との関連で名護及び大浦湾において漁場調査及び養殖試験を実施した。（詳細については実証事業報告書参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚礁を調査し、その効果と位置を周知すべく沿整用務に協力した。 	
	・魚礁調査（協力）	7月～3月	糸 満 沖 外 5 地 区	漁業者	漁協、市町村		効果調査及び集約
	・トビウオの漁獲量調査	4月～11月	八 糸 伊 重 満 江 山 市 村	漁業者	漁協、県漁連 漁業振興基金	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、トビウオを対象とした従来の追込網式から少人数で操業可能なトビロープ曳漁業へと転換がはかられそれに伴う生産量も増えた。特に時期中（5ヶ月）における3漁協（八重山、糸満、伊江）11隻の生産量は169トン、31,072千円平均単価200円と前年度より魚価は低迷している。 <p>対策として、沖縄県漁業振興基金からの依頼で、トビウオ漁業の盛んな東京都八丈島及び終地市場に漁業者及び漁協職員を引率して、鮮度保持、流通体制、加工等の調査を実施した。</p>	鮮度保持の指導県外出荷の強化

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	。漁場調査	4月～3月	知念村	研究グループ	漁協、市町村	。ウニの漁場造成効果調査及びウニの餌料海藻着生状況調査 昭和55年と58年に地先漁場をフェンスで囲い、ネットロン網、ブロック、モズク網等を沈設し、稚ウニの保護育成や繁殖等並びに海藻餌料の着生も試みたがいずれも失敗に終わった。	
調査事業	。蓄養魚の成長度調査	4月～10月	大宜味村	漁業者	漁協、市町村	。ハマフエフキは4月の測定で平均全長18.0cm、平均体重98.9gあり9月に測定したところ平均全長29.1cm、平均体重408.0gに成長。同じくミナミクロダイは4月の測定で平均全長18.5cm、平均体重126.0gあり、9月の測定では平均全長22.7cm、平均体重218.0gに成長していた。	
	。普及員一般研修	9月、12月	平良市 石垣市	普及員		。専門技術員による行政一般及び専門事項についての研修が行なわれた。 (普及員8名 2回)	続
研修事業	。普及員行政研修	2月	東京	普及員		。昭和58年度水産業改良普及職員行政研修会に1名参加。	続

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
研修事業	。漁業技術研修会	4月～7月	担当地区	生産グループ	漁協、市町村	。モズクの処理加工と品質管理についての講習会 昭和57年度奄美において、処理加工についての先進地研修を受けたのでその成果を生産漁協及び生産グループを対象に巡回指導を実施した。	必要に応じて実施
		9月～10月	与那原町	婦人部	漁協、市町村	。ヒジキの株移植についての学習会 漁協婦人部、水産高校漁業経営科2～3年生を対象にヒジキの生態から移植に関する実技と学習会を実施した。(10月5日～6日迄の2日間) 参加人員 婦人部22名、水高生20名	継続実施
		4月～3月	名護市	漁業研究グループ	漁協、市町村	。イバラノリの養殖についての学習会 実証事業を実施するに当り専技の協力を得て技術改良試験の結果報告と実施に当たっての学習会等を延べ3回実施した。	継続実施
		9月～12月	名護市 大宜味村	漁業者	漁協、市町村	。魚類の蓄養についての学習会 定置網から獲れる魚類の蓄養の必要性や餌料摂取など、又魚病対策や流通についての学習会を2回実施した。 参加人員延べ20名	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
研修事業	。 漁業技術研修会	4月～10月	読谷村	研究グループ	漁協、市町村	。 シラヒゲウニの増養殖についての学習会 ウニの種苗生産や移植放流など、カゴ蓄養についての学習会を実施した。 参加人員 15名	
		5月～10月	国頭市	漁業者	漁協、市町村	。 釣漁具・漁法（曳縄・立縄）の学習会 浮魚礁（パヤオ）利用による曳縄漁具・漁法の学習会を実施し、昭和58年6月22日にあるメーカーの協力により浮魚礁を設置した結果、漁獲高も昨年より伸び効果がでている。 参加延べ人員 30名	
	。 学	2月	本部町	漁業者	漁協、市町村	。 アゴ（トビウオ）2そう曳漁業について 与論町漁協トビウオ漁業研究会リーダー、南吉信氏によりトビウオ2そう曳漁具・漁法の技術的な講演が行なわれた。 参加人員 64名	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
研修事業	。技術交流	2月	漁業者センター	漁業者、団体 漁協役員	漁協、市町村	。漁協運営について 鹿児島県漁連漁政対策課長、難波義彦氏より漁協運営についての具体的は例をあげて講演が行なわれた。 参加人員 75名	
		12月	名護市	漁業者	漁協、市町村	。魚類蓄養について 八重山漁協の定置網漁業者3名が羽地漁協の蓄養漁業者と蓄養技術及び経営状況について活発なる意見交換がなされ、今後の蓄養の必要性を強く感じた。参加人員 10人	
		3月	伊江村	漁業者	漁協	。トビウオ1そう曳漁業について 糸満漁協3名、沖縄市漁協3名の漁業者を引率して県内でトビウオ漁業の盛んな伊江漁協でトビウオ漁業の技術交流を実施した。伊江漁協独自のロープ曳漁業は、1隻の漁船を使用し、2人で出来る操業方法であるので経費の少ない省エネ漁業である。糸満は2隻の漁船で行なわれているが、網の規模は伊江島式より大きい。網の構造、操業方法については違はない。	鮮度保持、流通について継続的に指導

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
研修事業	。技術交流	3月	糸満市	漁業者	協	<p>トビウオ漁業の技術的な面と経営等についての漁業者間で交流が行なわれたことは、今後のトビウオ漁業の発展が期待される。</p> <p>。トビウオの2そう曳漁業と流通について</p> <p>追込網漁業の発祥地である糸満は、昭和43年頃を境にこれまで20名～30名の乗手で構成したトビウオ追込網は消滅した。昭和57年にトビウオ漁業の盛んな屋久島へ技術交流に赴き昭和58年に漁具・漁法が導入され、糸満の地にトビウオ漁業が復活された。2隻の漁船で魚群をまくこの漁業は4～5名の乗手で操業される県内で規模の大きい漁業である。</p> <p>八重山漁協では、この漁業に感心が高く、矛突漁業者2名を3月末に派遣し、実地研修及びトビウオの価格について交流会を行なった。</p> <p>魚体の大きい春トビウオは日帰り操業で500～700kgも漁獲され東北の市場に出荷、1尾当りの価格は350</p>	育成指導の継続

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
研修事業	。技術交流	7月	長崎県	青壮年部	長崎県漁連 長崎県普及所	円、キロ当り1,000円の高値で取引されているために、2名の研修者には漁具・漁法並びに価格面で刺激となり、意義ある交流会となった。 。青年部連合会の交流について昭和59年、沖繩県漁協青年部連合会結成を目的に、糸満漁協青年部員1名、伊平屋村漁協青年部員1名を引卒し、長崎県漁協青年部連合会総会にセットし、交流会を図った。(詳細については水産改良普及活動実績報告書参照)	結成のために育成指導を図る。
試験事業	。イバラノリ養殖試験(新技術実証事業) 。カゴ網漁具の改良試験(新技術実証事業)	4月～3月 11月～3月	名護市 糸満市 石川市 佐敷町	研究グループ 漁業者 青年部	漁協、市町村 漁協、市町村 沖繩県、漁協 振興基金 水試	。専技の技術改良試験で得た、成果を実証事業で現地適応化を図った。(詳細については実証事業報告書参照) 。昭和58年6月、レンコダイを対象としたレンコ籠網漁業で成果を収めている長崎県の野母崎漁協に16名の漁業者を引卒(沖繩県漁業振興基金の協力)し、技術交流を行なった。 交流で得た成果を実施するため、3漁協で学習会を行ない、県水試の試験船、研究グループ員の協力で実	継続実施 レンコ籠網実証試験で実施

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
試験事業	曳縄釣漁業技術の改良試験	9月～3月	糸満市 石垣市 与那国町	漁業者 青壮年部 研究グループ	漁協、市町村	<p>証試験を実施した。(詳細については実証事業報告書参照)</p> <p>。専技の技術改良試験への協力し実施したところある一定の成果を得ることが出来た。(詳細については技術試験報告書参照)</p>	60年度の実証事業への展開
指導事業	巡回指導 。オキナワモズクの養殖指導	5月～3月 4月～3月	糸満地区 外5地区 伊是名村	青壮年部 研究グループ 生産グループ	漁協、市町村	<p>。記録と計画の中から効率的な漁業生産をあげ、漁家経営の安定成長を図るため、漁業日誌記帳の重要性について指導した。又、長崎県漁青連との交流の中で漁業日誌記帳の重要性が課題となり、さっそくその漁業日誌を持ち帰り、青壮年部や研究グループに見本として提供している。</p> <p>。58年度は前期収穫(12月)を目的とした生産体制確立への要請が県漁連からあり、それへ向けての種の多量保存(冷蔵保存)方法についての指導を実施した。実施地区伊是名漁協を主体に実施し、12月で2,500 缶と予想より下回ったが一応年内収穫の見通しを得られた。</p>	継続指導 継続実施

事業区分	課題	実施時期	地区又はは場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
指導事業	。イバラノリの養殖指導	4月～3月	名護市	生産グループ 定置業者	漁協、市町村	。実証事業の関連で主に、研究グループを対象に試験実施及び指導を行なってきたが、今回は特に定置網漁業者との組合せが十分可能であり、自主的に参加させた。	継続実施
	。ヒジキの養殖指導	10月～3月	与那原町	婦人部	漁協、市町村	。58年度は、漁協婦人部の他に水産高校の漁業経営科の実習生も参加して、学習会や実地指導を重点に行ない、46,428株の移植を行なった。	継続実施
	。ヒトエグサの養殖指導	9月～4月	伊江村 伊是名村 伊平屋村	生産グループ	漁協、市町村	。今年度は、新規事業であり養殖実施へ向けての基礎調査を重点に指導した。	継続実施
	。魚類の蓄養指導	5月～3月	知念村 外3地区	定置業者	漁協、市町村	。定置網漁業者を対象に定置網から獲れる幼魚に付加価値を高めるための蓄養の指導を行なった。	継続実施
	。シラヒゲウニの養殖指導	5月～12月	読谷村	研究グループ	漁協、市町村	。ウニの餌料藻である海藻（ホンダワラ、ウミウチワ、アナアオサ）と陸藻（ホテアオイ、ヤマカズラ、サツマイモの葉）の成長度及び生殖巣の処理方法について指導した。	継続実施

専業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	。青年水産教室	9月	本部町	漁業者 関係団体		。県漁政課金融共済係長、北村盛武氏 による「協同組合」についてと題し ての講演があり、その後活発なる質 疑応答が行なわれ有意義な青年水産 教室がもたれた。 なお、同時に漁業者センターの主任 普及員、仲間勲氏による「かふせ釣」 漁具・漁法の使用方法についての説 明が行なわれた。参加人員 69名	
指導専業		11月	那覇市	漁業者 青年部 研究グループ	漁協、市町村 水試	。県水試場長、伊佐次郎氏による「裁 培漁業」についてと農水産開発代表者 新崎盛謙氏による「沖繩の養殖漁業」 についてと題しての講演が行なわれ た。参加人員 50名	
		1月	那覇市	漁業者 青年部	漁協、市町村	。琉球大学助教授、目崎茂和氏による 「サンゴ礁の発達と沖繩の地形」に ついてと鹿兒島県水産業専門技術員 若松清氏による「グループリーダー の育成」についてと題しての講演が 行なわれた。参加人員 60名	
	。少年水産教室	8月	漁業者センター	漁村子弟	漁協、市町村	。漁村の子弟に夏休み期間中を利用し	継続実施

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
指導事業	<p>漁村青壮年婦人活動実績発表大会</p>	11月	那覇市	青壮年部 婦人部 研究グループ	水産高校 漁業振興基金 漁協、市町村 農政普及所 関係団体	<p>て水産に関する初歩的な知識及び実技実習を中心に5日間の夏期学級を開催した。(7市町村、19名参加)</p> <p>。漁村の青壮年婦人グループの自主的な研究活動の成果を発表し、相互間の知識の交流と活動意欲の向上を図るために活動実績発表大会を開催した。発表者4名、参加人員250名</p> <p>知事賞</p> <ul style="list-style-type: none"> 。青壮年の部 <ul style="list-style-type: none"> 島の漁業後継者として伊江漁協青年部・渡久地政廣 。婦人部 <ul style="list-style-type: none"> 漁家の良さを生かした暮しの工夫 八重山漁協婦人部、池井千代子 	継続実施

昭和58年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖縄県
 改良普及員室名称 宮古支庁農林水産課
 普及区域 宮古全域

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	1. 宮古地区漁村青少年協議会	58. 9月 59. 1月	支庁会議室 池間漁協 支庁会議室	後継室	漁市町村	1. 事業計画の検討実施(年3回)	漁業後継者対策事業
	2. 沖縄県沿岸漁業改善資金の運用事業	3月 4月～3月	管内区域	漁業者	漁市町村	2. 資金制度の運営について協力 。需要調整、申請等の検討、手続の 指導事業実施後の調査指導	沿岸漁業改善資金助成事業
調査事業	1. 漁業公害調査	4月～3月	平良市(真謝)	平良市、漁協	各市町村	1. 海浜状況観測指導及び水温測定	漁業公害対策指導事業
	2. 魚礁の効果調査	4月～3月	来間、池間 伊良部町 下地島沖 高野沖	漁業者 普及員	漁協、市町村 水試専技	。漁業者への魚礁の位置指導並びに漁獲効果調査(協力)	継続調査
研修事業	1. 水産業改良普及員一般研修	58. 6月 12月	セントア 石垣市	普及員	専技	。漁業後継者育成事業について 。専門技術員による行政一般並びに専門の事項について、広く知識を深め 地域漁業者の指導に当る	継続

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	。オキナワモズクの養殖指導	4月～3月	管内全域	研究グループ 漁業者	漁市町 協村	。主にグループの育成指導 。収穫後の加工処理についての指導 (伊良部町養殖研究グループ結成)	継続実施
	。一本釣漁具漁法の普及指導	4月～3月	管内全域	漁業者	漁市町 協村	。主にグループの結成指導 (伊良部町小型船グループ結成)	継続実施
指導事業	。沿岸漁業改善資金の活用指導	4月～3月	管内全域	漁業者	漁市町 協村 専技 県漁連 県漁連	。貸付申請手続き及びその利用について 事業事務指導 。申請件数11件 (申請11件中1件は見送) 。貸付金額 18,684千円	。水産業改良普及組織と連携 。運用の面では沿岸漁業改善資金の貸付事業の普及指導活動の中にとりこむ。

昭和58年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖 縄 県
 改良普及員室名称 八重山支庁農林水産課
 普及区域 八重山地区

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体名	普及活動経過	翌年度への展開事項
	漁村青少年協議会	9月27日 1月19日 3月28日	八重山地区 漁協会議室	漁村青少年	市 協 漁 学 識 経 験 者	年3回協議会を開催し、漁業後継者対策事業策定のための意向集約、検討を行った。	継 続 実 施
企画事業	沿岸漁業改善資金運用事業	6月～3月	八重山地区	漁 業 者	漁 市	改善資金需用調査、申請書類審査、検討のため、運営協議会へ参画	普及事業推進のため効果的活用を図る。与那国地区への普及指導。
	漁業公害調査	4月～3月	石垣市の他	漁 業 者	漁 協	。海兵調査指導(主管課へ報告) 。水質測定()	継 続 実 施 土砂流出、沿岸海域汚染について啓蒙
調査事業	シヤッコ貝放流及び生残状況調査	7月～3月	石垣市登野城地区	シヤッコ貝増殖研究グループ	水 試 八 重 山 支 場 漁 協	水試八重山支場と協力し、激減しているシヤッコ貝資源の保護管理をするための啓蒙指導 ブロック付け、折ちゅう法などによる、シヤッコ貝沖出しを継続し、生残状況を調査(普及員会議にて別紙報告)	継 続 実 施

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体名	普及活動経過	翌年度への展開事項
調査事業	表層浮魚漁獲調査	7月～3月	石垣島 与那国島	漁業者	漁協	<ul style="list-style-type: none"> 7月に漁業者の協力を得て、浮魚礁での曳縄操業試験を行い、マグロ、カツオ、サワラ等50kg余を漁獲した。 漁業者へ効果報告を行なったところ多くの漁業者が表層浮魚礁で操業するようになった。 漁獲調査票を配付し、漁獲効果を調べた。 石垣地区は9月下旬の台風により浮魚礁が流失したため、調査を中断、 	<ul style="list-style-type: none"> 漁具、漁法の改良普及による漁獲増
研修事業	水産業改良普及員行政研修 普及員一般研修	2月 9月～12月	東京都 平良市 石垣市	普及員 普及員	庁 水産庁	<ul style="list-style-type: none"> 水産業の現状、漁場保全、沿整事業流通、改善資金等について学習。 専門技術員による行政一般及び専門事項についての研修が行なわれた。(普及員8名、2回) 	<ul style="list-style-type: none"> 続
指導事業	ヒトエグサ養殖指導	10月～3月	名蔵湾	漁業者	市 漁協	<ul style="list-style-type: none"> 新たに、養殖研究グループを結成し、名蔵湾へ100枚養殖網をはり出した。 収穫までこぎつけたが洗じょう乾燥施設の不備で製品出荷は少なかつた。 養殖管理が不十分で雑藻の混入が多かつた。 	<ul style="list-style-type: none"> 洗浄、乾燥施設の整備 動力式洗浄機の導入 養殖管理の徹底

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体名	普及活動経過	翌年度への展開事項
	少年水産教室	8月	漁業者センター	漁協組合員の子弟	漁協	<p>。 漁村の子弟に対して水産業に関する知識を得るための合宿学習。</p> <p>八重山地区からは4名の参加があった。</p>	継
	沿岸漁業改善資金借受け指導	4月～3月	八重山地区	漁業者	漁協 市	<p>。 改善資金の借入れ手づき、返さい等の指導。</p> <p>。 申請状況</p> <p>経営等改善資金 9件 12,698千円</p> <p>生活等改善資金 5件 3,384千円</p> <p>後継者等養成資金 1件 2,598千円</p> <p>計 15件 18,680千円</p>	<p>継</p> <p>の</p> <p>回</p>